

## 当尾地域でのワークショップ意見

【概要】 当尾を一緒に考える会

日 時：9月5日 午後8時～9時30分)

参加者：22人

意見	方向性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・区でのしきたり等の簡素化（社会の流れ）も限界、これ以上簡素化になれば、区の崩壊に繋がる。原点回帰が必要。</li> <li>・地元の文化・歴史・昔の生活様式について知らないことが多い、地域に根差した生活が出来ているのかと思う。</li> <li>・人口は増えてほしい。外の方を呼び込むだけでなく「地域愛」地域自ら振り返ることも大切。</li> <li>・奈良市クリーンセンター候補地付近であり、養豚場の関係で里道が通れなくなっている。未来に目を向けることも必要であるが、昔ながらの道も通れるよう、原点回帰が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口増につながる取組</li> <li>・地域を知る取組</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終的には人口が増えること。資料のような負のサイクルから抜け出したい。</li> <li>・労働力が必要。住みやすい環境・働ける環境があれば、地元企業で働く人も増えていく。</li> <li>・観光をきっかけに人を集め、1か月毎にイベントを週単位にできればいい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口増につながる取組</li> <li>・働くことのできる環境づくり</li> <li>・集客のためのイベント開催</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありたい姿の前に、何が出来るかは具体的に分からないが、やらなければならないことは理解している。</li> <li>・若い世代（地域の次の世代）が、当尾地域に住むため家を建てるとなっても、ローンや道の課題の他、建築基準法などの法律的な問題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法的緩和に向けた取組</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・今から10年後は、更なる人口減少により消滅に近いと思われる。</li> <li>・外へ出た人へのアンケートも考えてたことがある。</li> <li>・農業で生計を立てていくことは、耕地がせまく非効率であり、手間が掛かりすぎるため難しい。何をどのようにしたらよいか、具体的にわからない。</li> <li>・当尾まつり、当尾文化祭、小さな資金と地域の方の熱意で開催できている。</li> <li>・会議として事業を進めるには『船頭』は必要。誰にするのか決めてやらなければならないと考える。</li> <li>・土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所もある。新しく家を建てる場合など、より強固なものを建てる必要があり、市から補助が出るようになれば、ある程度は建築が進むのでは。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・吊り店は、高齢者にとっては、小遣い稼ぎの場である。</li> <li>・利用者は減ってきている。大規模な所に買いに行っている。</li> <li>・農業では儲からないが、来年に向けたチャレンジが気持ちにつながり、健康づくりになっている。</li> <li>・農地を有効につかえるアイデアがあれば良い。</li> <li>・山は荒廃し竹林化、作物は有害鳥獣の対策が必要。</li> <li>・農業＝土を触るという事を何とかして続けていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業等を通じた高齢者の生きがいづくり</li> <li>・有害鳥獣対策</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで観光客が少ない地域に人が来ることについて、人数（量）の問題である。またモラルもある。</li> <li>・以前よりマナーは良くなっているかもしれない。</li> <li>・観光客との会話で話が弾み楽しいこともある。遠方の方ばかりでなく、地元の方とも知り合いになり、顧客にもつながっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来訪者のモラルへの取組</li> <li>・来訪者への声掛け</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイキングで小規模で来られるのは問題ない考える。</li> <li>・無くなった道、環境を維持することについて、区でも年4～5回の草刈だけでは維持できない。加えて高齢化で難しい。</li> <li>・歩きたい前に背景を理解することが必要。</li> <li>・吊り店でいくら売った所で生計は立てられない。</li> <li>・市場や道の駅といったことは綺麗ごとではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化対策への取組</li> <li>・地域事情への理解</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生まれも育ちも当尾であるので、意識することが少ないが、人口が少なくなっていくことを目の当たりにし、何とかしなければという思いがある。</li> <li>・高齢化の中で、日常生活では介護もあり、農地はあってもする人や時間がない。</li> <li>・地域的に来られる方が少ないので、吊り店をやっても買ってくれる人がいるのかと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農地の利活用</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・当尾の郷会館を一つの拠点として、少しの野菜でも集めることで、道の駅のような何かできればと考えている。</li> <li>・家で消費する以外の分を持ち寄り、人と人との交流の場ができればと思っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当尾の郷会館の利活用</li> <li>・当尾の郷会館の交流拠点化</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・空家対策と農地はセットで考えないといけない。住みたくても住めない現状があり、法律と現状に大きな乖離がある。全国的にはどこでも同じような問題、事例があるはずで市と研究し糸口を見つきたい。</li> <li>・農業者であるという条件が負担になる。府の制度で地域指定を受け土地を柔軟に活用できようでないと、空き家だけが売れることになり、農地のある地域としての維持はできない。市としてのモデルを試行錯誤している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法的緩和に向けた取組</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地元の理解や応援、皆で後押ししてほしい。</li> <li>• 市への要望についても、前段に地域の方々の協力、後ろ盾も必要。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 具体的に実行する受け皿について、個人としてはあっても、当尾という地域で実行する受け皿が必要ではないか。</li> <li>• 役員だけではなく、当尾全体で考えなければならない。超えていかなければならない課題も大きい。</li> <li>• どこでどう取り組んでいくのか、言いつばなしでなく、一步踏み出すようなやり方が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域で実行する受け皿づくり</li> </ul>